

令和3年度教育事業 「教員免許状更新講習」 実施報告

- 1 趣 旨 体験活動の意義について理解するとともに、学校教育における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 3 日 時 令和3年8月2日（月）、3日（火）、4日（水）9：00～16：00
- 4 場 所 国立淡路青少年交流の家
- 5 対 象 教員免許状更新講習対象者
- 6 参加者 20名

7 内容等

<8月2日（月）>

教育現場で活かす体験活動①「子どもたちがわくわくする体験活動」

講師：大阪国際大学 教授 高見 彰 氏

今年度も引き続き高見教授に講師をお願いした。受講者が実際にイニシアティブゲームのプログラムを体験することで、レクリエーションのポイントや注意点を学ぶことができた。常に窓・扉を開けて換気を行い、マスク着用や定期的な手指消毒などの感染症対策も行い、学校現場で学級づくり、仲間づくりなどに活用できる内容であった。



<8月3日（火）>

教育現場で活かす体験活動②「体験活動の実際」

講師：国立淡路青少年交流の家 次長 奥村 広一
企画指導専門職 平岡 実紗

主体性や社会性、環境問題や自然の多様性などについて学ぶことをねらいとし、カッター研修及び環境教育プログラムの体験活動を実施した。この実習を通して安全管理や活動のねらいを踏まえ、より教育効果を高めるためにはどうすればよいかについて考えることができた。



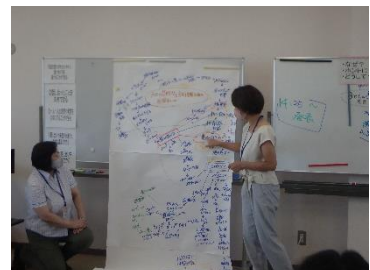
<8月4日(水)>

教育現場で活かす体験活動③「教育の現状と課題について」

「学校教育における体験活動の意義」

講師：国立淡路青少年交流の家 所長 大本 晋也
公益財団法人兵庫県人権啓発協会事務局
次長兼啓発・研究部長 安東 靖貴 氏

教育の現状と課題について、校種毎に分かれたグループワークを通して考えを深め、学校教育における体験活動の意義について学ぶことができた。また、地域、経験年数や年齢を越え、全体発表でお互いの現状を広く共有し合い、子どもたちにどんな力をつけるべきかを考えることができた。



8 参加者の声

- 非常にあたたかい雰囲気の中で、3日間有意義な研修ができました。
- 期待以上に皆さんと仲が深められたこと、学びが深められたこと、感謝しています。
- 体験活動の意義を改めて感じ、今後の教育活動に生かしていきたいと思いました。
- 自分がそのグループで自分の意見を言える環境を作るのは本当に大切だと改めて感じました。子どもたちにもそういう環境を作ってあげたいと思いました。

9 成果

事後アンケートから、「講座内容」「知識等の習得」「運営面」いずれについても、「よい」「だいたいよい」を合わせると、100%の評価を受講者から得ることができた。

初日のインシティアティブゲームで受講者同士の距離が縮まり一体感が生まれたこと、すぐに学校現場で活用できる内容が含まれていたこと、それを支える学びの場が設定されていたこと等が好評の一因であったと考えられる。

また、ある程度の間人関係ができた中での安心感が学びの環境として重要であることを再認識できたことも良かったようである。

更に、新型コロナウイルス感染症の影響により中止やリモート実施になる講座が多い中、対面での体験活動を望む先生方が一定人数存在し、その要望に応えることができたのも高評価につながったと考えられる。

教員免許状更新講習廃止が検討されているというマスコミ報道が出たが、体験活動の重要性を認識している先生方は多く存在している。本講習は学校現場で評判が口コミで広まっているので、今後もニーズをしっかりと受け止め、教員免許状更新講習が次年度実施できるのであれば続けていきたい。